

「リハビリテーション」

国立療養所東京病院
砂 原 茂 一 著

心身障害児総合医療
療育センター

小 池 文 英

本書を一読して「待望の書がついに出了」という感慨と喜びを覚える。

本書はいわば「リハビリテーション概論」ともいうべきものであるが「概論」というと、固苦しいアカデミックな（さらにいうと、読むのをちょっと敬遠したくなるような）書物のように受け取られるかも知れない。しかし本書は決してそのようなものではなく、極めて読み易く、親しみ易い内容のものである。

とはいっても、本書は決して「通俗書」の類ではない。分り易く書かれてはいるが、その内容全般にわたって厳正な学問的・科学的な裏付けが一貫して流れている。

「リハビリテーション」という言

葉も、最近では、わが国の国民の間にもかなり浸透するようになったのは誠に喜ばしいことであるが、しかし、その内容の受け取り方は甚だ浅薄・皮相であり、かつ、誤解が多いのは困ったことである。

しかも、このことは「一般国民」はとにかくとして、医療や社会福祉等に携わっている人達にも共通するように思われるのは残念至極であり、このことがわが国の障害者福祉対策の健全な発展を阻む大きな要因の一つとなっていると考えられる。

本書は「リハビリテーションとは何か？」について、種々の角度から懇切丁寧な解説している（著者も述べているように、医学的リハビリテーションを中心に記述してはいるが

社会的、職業的な面にも随時触れており、リハビリテーションの全貌を十分に伝えている）。かつまた、わが国の現状がどうなっているのか、今後はどうあるべきか、等についても公正かつ有益な示唆を投げかけている。

国民のすべてに、といたいところだが、それはとにかくとして、医学・看護・社会福祉・教育関係の学生の副読本として、ぜひとも読んでもらいたいと願うものである。

最後に、著者の深遠な学識と真摯な学究的御努力に深く敬意を表する次第である。

（新書版、218頁、1980、¥380。
岩波書店 刊）